建築とリフォームの情報紙
技のリフォーム HOT PRESS
2006年2月
Vol.10
編集・発行／
技ネット株式会社

［特集］技

家族客に対応する老舗ホテルの改修

～営業する中での部分的リフォーム～

客室の大きさの均等化

「豪雪」の冠をほしいままにして2005年が過ぎ、雪の合い間の2006年1月某日の氷見灘浦海岸。左手に能登半島、眼前に日本海。冷え込みは厳しいものの、有難い気分になるほどの好天で、水平線が鮮明に見える。

今月は富山県氷見市宇波にある「氷見グランドホテルマイアミ」をご紹介する。ひみ岩井戸温泉としてご存知の方も少なくないだろう。

本館は築数十年が経過し、部分的に改装を進め、すでに四階大部屋は改装がなされている。昨年は、家族等の個人で利用される五階の客室二部屋と四階の一部屋の間仕切りの移動と内装、および外壁塗装が行なわれた。

「家族連れでの客室利用が増えたことに対応して、部屋の大きさを均等化することや客室内風呂の設置という要望でした。利用者の多い年末に備えて八月に着工し、十月末に完成しました」と担当者。

改装工事の過程での問題点や苦労した点を担当者に尋ねた。

「リフォームには付き物の問題点といえますが、建築物の老朽化の程度は解体してみないとはっきりわからないのです。今回も、残せると思っていたところが実際には予想以上に傷みがあって変更を入れることもありました」

あくまでも利用客に配慮しての作業

もう一つの問題があった。部分的な改装なので、ホテルとして営業している中での工事である。その面で配慮すべき点があったと言う。

「チェックアウトの十時からチェックインの三時までの、お客さまのいない時間帯に仕事をしなければなりませんでしたから、自分たちのペースで進められないというやりづらさはありましたね」

また、外装工事のために足場を組む必要があるが、それはホテルとしての外観を損なうことになり、非日常的で贅沢なひと時を楽しもうと出かけてくる利用者にとって不快な思いをさせることにもなりかねない。

「そのためには、予約状況と照らしあわせたり、旅行会社やお客様に事前に了承を得るなどして、作業にかかるベスト・タイミングを図る必要がありました」

台風の影響も重なり、八月に着工し十月末に完成とはいうものの、工事自体に要した時間は計二週間程度だったと言う。客の出入りに合わせて細切れに作業していたことが伺える。

新しくなった室内（上下とも）。広くなり、ゆったりとした時間がすごせる。

氷見グランドホテルマイアミの外観。写真中ほどの2部屋のバルコニー部分を室内に改装した。

ベランダを広縁に—広がりを感じる客室

十二畳の客室はベランダ部分が広縁になったことや、一枚ガラスの窓の効果か、思いのほかゆったり感がある。眺望もいい。別館「潮の香亭」の露天風呂も見える。もちろん館内に大浴場はあるが、家族客の利便を考えて今回の改装で、ちいさなユニットバスがしつらえられた。

「0・7坪。ちいさいです。」

いや、これでいい。浴槽に湯をためるにも速いし、と客の立場で思う。

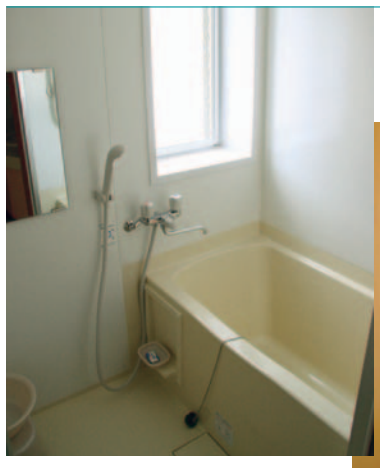
この雪で、年末年始は例年のようには集客できなかったようだが、予約係長は「改装してからは、自信をもってお客様にお勧めできますね。当館専用遊覧船で大敷網を見学できますが、今度新潟からいらっしゃるお客様は、鰤があがるのを見たいとお二人で遊覧船をチャーターなさいました」と、喜色満面で話す。

ホテルマイアミは県内の利用者に加えて、岐阜県、長野県からの来訪客も多いそうだ。冬の時期のお目当てはなんと言っても鰤（ぶり）。

「もう、鰤さえ出しておけば間違いない（笑）」

氷見の寒鰤は、富山県内の一般市民の手に（口に）入りにくいものになった感があったが思い過ごしではなさそうだ。他県の人がいっぱい食べるようになったのかもしれない。

世界三大絶景—3000メートル以上の高峰が海上に眺望できる—の一つが、ここ高岡氷見間の海岸から見える立山連峰である。氷見の魚もご馳走だが、展望大浴場や露天風呂から絶景立山連峰の見える日に氷見グランドホテルマイアミに泊まれるなら幸いである。



客室内につくったユニットバス。コンパクトで使いやすさを考えた。

技のリフォーム
0120-183-304（イイワザ ミセマス）